



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

ミサトピア小倉病院開設から22年が過ぎました。かつては病床200床が概ね満床の状態でしたが、ここ数年は180床のラインを行ったり来たりしていました。当院の病床稼働率は90%前後といったところで、市中の病院の多くは直近で80～90%の稼働率というデータがあります。

「小倉病院はそこそこ頑張っている」と言えなくもないのですが、20床の空床はやはり大きい。癒しのための施設ではあるものの、利益がなければ経営を続けられなくなります。

少子高齢化、働き手不足、物価の上昇と相次ぐ逆風の中で「病院はこうやってゆっくり衰退していくのか」と思わざるを得ない状況でした。しかし地域の医療機関や施設と連携し、相談・依頼のあった患者さんを積極的に受け入れ、病棟間での患者さんの移動や情報を共有することで受け入れられるベッドを生み出していくという努力を重ねた結果、令和6年5月以降は概ね190床を維持することができるようになりました。もちろん予期せぬ退院もあるので手放して喜べることはありませんが、ここまでの努力が報われていると言えると思います。その甲斐あって当院を含め財団施設は、収益が少し上向いてきています。何とかこのモチベーションを保って「この程度が限界」から「ここまでは頑張ってみよう」という意識の変換ができれば更なる強みになると思っています。

表紙写真 写真タイトル：「チューリップ」

撮影者：樋口 孝

当院から車で10分ほど行った所に、国営アルプスあづみ野公園（堀金・穂高地区）があります。毎年、チューリップ127品種に29万球が咲く事で、多くの方が訪れる事で有名な所です。

桜の季節、散歩に出ました



昨年は4月の初めには桜が見頃になっていましたが、今年は開花の時期が少し遅く、第3週目頃になってようやく満開となりました。

病棟毎に

病院の駐車場へ散歩に出かけましたが、天候にも恵まれ、暖かい日差しと気持ちの良い風が吹く中、満開の桜だけでなく花壇に咲いている水仙やムスカリなども一緒に楽しむことが出来ました。

患者さんからは「やっぱり外は気持ちいいね」「桜がちょうど見頃で良かった」「きれいだった」「桜の木が大きくなったね」などの感想が聞かれ、とても良い笑顔でお話をしていただきました。

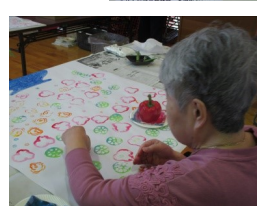
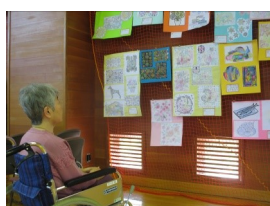


文化祭が開催されました

6月5日に体育館にて文化祭を行いました。患者さんが作業療法の時間に作成した作品の展示や各病棟で行っている活動の紹介、当日来場された患者さんに野菜を使ったスタンプを押して壁画を作っていただく体験コーナーを行いました。

患者さんの作品はパッチワーク、革細工、木目込み細工等作品の種類も多く、どれも時間をかけ作られた力作揃いで、じっくり見学されている方が多かったです。また他の患者さんの作った作品を見て、作り方をスタッフに尋ねたり「今度作ってみたい」と話される患者さんもいらっしゃいました。

体験コーナーでは、来場された患者さんにパプリカ、蓮根、オクラ、チンゲン菜を使った野菜スタンプを押してもらい、花の壁画を作りました。初めて野菜スタンプを押したという方や、楽しそうに何度も押している方がいたり、大勢の方に参加して頂くことが出来ました。



衣料品販売がありました

5月22日に衣料品販売がありました。玄関ホールを会場とし、夏物衣類・下着・小物などが並べられました。

開店から患者さんが足を運び、品物を手に取り選ぶ姿が見られています。患者さん同士で来店されたり、職員に付き添われて来店されたりと形は様々でしたが、「似合う？」など言葉を掛け合って交流をしていたり、「これは買える？」など相談したり、買い物だけでなくコミュニケーションの場としても盛り上がっていました。患者さんの病状によってはコミュニケーションが不得意になりがちですが、自然とそうした行為が引き出せる、良い空間になっていたようです。



向日葵の種をまきました

病院東側の敷地には、畑があります。この場所では、療養生活の一環として、患者さんが職員と一緒に作物を育て、収穫し、食してきました。秋には収穫祭が行われるなど、開院当初から病院の重要な資源として活躍していました。

しかしながら、患者さんの高齢化に伴い、畑に出ることが難しくなった昨今、畑は利用されないまま荒れてしまっていました。

この度、看護局長を筆頭に有志が集まり、畑再生プロジェクトが始まりました。作物を育てる畑としてはもちろんのこと、患者さんの目

を楽しませようと向日葵の種がまかれました。職員だけでなく、保育所の子どもたちも種まきを手伝ってくれました。一面の向日葵が見られることを楽しみにしています。



防火防災訓練が行われました

5月29日、夏季の防災訓練が行われました。院内での昼間の火災を想定し、放送による指示、初期消火の手順、患者さんの避難誘導の実際、消火設備の取り扱いなどが確認されました。避難誘導終了後は、敷地に場所を移して消火器・放水栓を実際に操作し、有事の際に確実に取り扱えるよう練習をしました。



行事食

食事療養部の新井シェフと平嶋シェフによる5月の行事食が5月24日に患者さんの昼食として、また職員には従食の本日のランチとしてふるまわれました。

従食は8ヶ月ぶりの再開後初の行事食ということもあり、本来の提供数は10食ですが、朝（夜中）早くから出勤し、多くの職員が楽しめるよう30食も用意してくれました。とは言え30食も売れるのか心配になった新井シェフは、当日自ら各部署に行事食の宣伝をしていました。そんな心配をよそに、あっという間に完売するほど従食は大盛況でした。

この日のメインは「普段とは一味違うソースのハンバーグ」に「人参のポタージュ」「アスパラのサラダ」「手作りチーズケーキ」と見た目でも楽しめ、味も絶品でどれもこれもとてもおいしくいただきました。



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記

安曇野日和43号をお届けします。患者さんの生活の様子、院内の様子は伝わったでしょうか。6月より病院のホームページがリニューアルされています。そちらも併せてご覧ください。

梅雨が明けるといよいよ夏が盛りとなります。日増しに暑さが強まる今日この頃、水分補給、冷却対策など万全に乗り切りましょう。